

季刊

2011.3.28

CST News Report No.4

平成 22 年度 理数系教員養成拠点構築事業（福井大学） since 2009.8.10

連携することの意義とは

福井県教育研究所
副所長 加藤 正弘

福井大学と教育委員会との連携が進み、それぞれの事業が一定の成果をあげつつあります。

CST 事業にあたっては、当初 CST 認定のインセンティブや拠点校の取り扱いが懸念されました。しかし、それには及ばず、活発な展開になっています。

学校における 11 名の上級 CST は、独自に 10 回を超える公開授業を展開したり、学生や院生のインターンシップを受け入れたりして活躍しています。公開された研究授業の中には、企業の技術者をゲストティーチャーとして迎え、生活に生きる科学技術を取り入れた実験学習もあり、上級 CST らしいチャレンジングな授業となっています。すべてを企業技術者に任せるのではなく、上級 CST が授業のデザインをした上で、技術者の得意なところを部分的に生かしているのが特徴です。

また先日は、大学に学生・院生、教員、大学教員などの CST 関係者が集い、合同研修会が開かれました。情報交換のみならず、日頃の実践や教材を紹介し合うなど、活発な論議がなされました。

教育研究所においては、学生・院生の CST 受講者に、本所の研修講座を受講する機会を設けています。また彼らは、本所のサイエンスカー巡回指導や要請訪問にも TA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学校現場に出かけています。学校の教員と同じ課題や実験に取り組むことが、とてもよい経験になっているに違いありません。

このように、大学を起点にし、教育委員会や学校が連携することによって、学生・院生や教員のそれぞれが様々な学びをつくっています。つながり合い、関わり合いを持ち合うからこそ得られる学びであることが、福井が実践する CST 事業の特色だと思います。今後、さらに連携が深まって数々の成果があがっていくことを願っています。

平成 22 年度 CST 事業評価委員会

3月10日(木) 13時30分～15時30分の日程で、平成22年度CST事業評価委員会が開催されました。福田 優 福井大学長による開会の挨拶の後、本事業担当者が平成 22 年度事業報告ならびに会計報告を行いました。

委員の皆様からは、理科を苦手とする教員に対して理科が身近なものだと教えていくと今後の実りが大きいと考えている、CST の周知活動を県と連携して行ってほしい、学校と企業の連携授業を積極的に利用してほしい、理科研究グループ等との情報のやりとりと連携を強化し、拠点という「点」でなく「面」として力をつけてほしい、CST が履歴事項として認定されるよう働きかけてほしい、支援終了後に自立事業となるために動き出すことはもちろんのこと、国や県を動かして事業を継続してほしい、公募制を続けていく中で、受講者を一定数確保するためにはどうするのか、等のご意見・ご高評をいただきました。



CST 事業評価委員会（於 福井大学文京キャンパス）

Line Up

- (1) 連携することの意義とは
- (2) 平成 22 年度 CST 事業評価委員会
- (3) **Pick Up!**：第 2 回 CST プログラム受講者合同研修会
- (4) プログラム受講者だより
- (5) 平成 23 年度第 1 四半期（4～6 月）のお知らせ

Pick Up! 第2回 CST プログラム受講者合同研修会

2月21日(月)、第2回 CST プログラム受講者合同研修会を福井大学にて開催しました。

10月7日(木)に開催された「第1回 CST プログラム受講者合同研修会」で出された要望をもとに、今回は上級 CST 養成プログラム受講者による「受講講座報告」と「地球分野の実践・教材紹介」を行いました。

短い発表時間ではありましたが、今後の授業や CST 受講者としての活動にすぐに活かせる内容や参考となる事柄も多く、有意義な研修会となりました。



< 参加者の感想 >

- ・短時間に様々な情報が得られ、勉強になりました。
- ・多くの研修、実践を一堂に会して見ることができたのは良かった。
- ・実践・教材紹介は、分野が決まっても内容がいろいろあって参考になった。
- ・子どもに興味を持たせるような教材をたくさん知ることができた。
- ・この教材を、どう子どもの必然性にのせるかが一番の問題だと感じた。
ダイナミックな授業の展開では、同じ教材でも形を変える必要があり、難しい。
- ・発表となると発表者に力が入って大変なので、日頃使っているものを報告する形だと、今後長続きすると思う。
- ・皆が集まったせいかくの機会なので、ディスカッションをしたり、もっといろいろなことをしたい。
- ・1ヶ月に1回でも、集まって勉強会ができると良いと思う。



開催日：平成23年2月21日(月) 18:00～20:30
場所：福井大学文京キャンパス 総合研究棟1 12階

< プログラム >

- 18:00～18:05 開会挨拶
- 18:05～18:35 ポイントレクチャー
「身近な自然を活用する地学教育」
- 18:35～19:05 受講講座報告
 - ・科学館等の講座に参加して
 - ・「街の中の化石探検」講座報告
- 19:05～19:15 休憩
- 19:15～20:20 地球分野の実践・教材紹介
 - ・三国分野での野外(地質)観察会の紹介
 - ・巡回研修「太陽と月」の紹介
 - ・「金星」に関する教材紹介
 - ・全国星空継続観察
「スターウォッチング」の実践報告
- 20:20～20:30 アンケート等
星空観測・意見交換会(希望者のみ)

プログラム受講者だより

2月5日(土)に、上級 CST 受講者1名と中級 CST 受講者1名が、公開講座「細胞から個体へー生物のからだの作り方ー」(福井大学発 最先端研究～明日への挑戦 Part7～)を受講しました。

講座の概要

ヒトに限らず、多細胞生物の命は1個の受精卵からスタートします。個体としての体作りには、細胞の数が増えるとともに200種類とも言われる分化した細胞がバランス良く作られる必要があります。体作りのために働く、多くの生物に共通の原理を理解することで、私たちの体がどのように維持されているかや、様々な病気の原因について理解することができます。

受講者のひとこと

内容は高度なものでしたが、遺伝子やiPS細胞について興味・関心を持っている小中学生も多いので、研究内容について子どもたちに分かりやすく広めていく機会があると良いと思いました。



於 福井大学アカデミーホール

平成23年度 第1四半期(4～6月)のお知らせ

- 平成23年度 CST 養成プログラム受講者募集日程
 - 中級 CST 受講者(院生対象)
平成23年4月8日(金)～4月13日(水)
 - 上級 CST 受講者(現職小中教員対象・第3期)
平成23年3月22日(火)～4月13日(水)
 - 面接日：いずれも平成23年4月16日(土) 午後
- 講座情報
 - 4/20 はやぶさ-人類初の小惑星イトカワへの往復飛行の挑戦-(原子力安全システム研究所)
 - 5/26 活用力をつける授業の在り方(嶺南教育事務所)
 - 6/12 石川県の地質と化石(恐竜博物館)
その他の情報は、ホームページをご覧ください。
- ※ 講座を提供いただける機関が増えました
 - ・財団法人若狭湾エネルギー研究センター
 - ・独立行政法人日本原子力研究開発機構
 - ・株式会社原子力安全システム研究所

CST News Report No.4

2011.3.28 発行

編集・発行・印刷

福井大学 CST 企画運営事務局

TEL: 0776-27-9928

mail: cstfukui@f-edu.u-fukui.ac.jp

URL: <http://www.cst-fukui.net>

本事業は、(独)科学技術振興機構の支援のもと実施しています。